

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」掛川校		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 27日 ～ 2025年 11月 29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年 10月 27日 ～ 2025年 11月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育の為、一人一人に寄り添った支援を行っていること。	お子さんの発達段階や特性に合わせたオーダーメイドのプログラムを作成し、支援を行っている。	個別療育ではあるが、同時間帯のお子さんと一緒に2, 3人で活動することで、友達との関わり方や人との距離感、負けの受け入れなどを引き続き丁寧に支援したい。
2	お子さんの様子を随時、見学することができ、そのお子さんにあったアプローチの仕方などをその場で助言、ご家庭で役に立ててもらえること。	お子さんの特性や発達段階、求める力に合わせ、担当職員を随時検討して、よりそのお子さんに合わせた療育ができるよう努めている。	引き続き、保護者からの相談があれば、時間を取り相談にのり、場合によっては学校に訪問し、情報共有や役割の分担を行い、支援の見直しを行いたい。
3	全国200校舎、静岡県内23校舎あるため、いろいろな資格や経験を持った職員の様々な視点から見立て支援が行われていること。	日々の生活を振り返る時間を設け、じっくりと自分を見つめることができるように、指導員とお子さんが良い関係を築くように心がけている。	小集団で活動するのイベントや地域と関わる活動を取り入れ、活動の幅を広げたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団での様子や表れを把握することが難しいこと。	個別療育であることが当事業所の特徴であることから、友達との関わりについての課題を行うことが難しいため。	引き続き、小集団活動を取り入れたりと、学校に訪問し、お子さんの様子を見学し、先生方から様子を伺ったりしていきたい。
2	長期休暇時に、預かり型集団療育のような外出して行う活動ができないこと。	1時間の個別療育であるため。	年に1回ほど、工場見学など保護者と一緒に参加できるようなイベントなどを企画したい。
3	保護者会の開催すること。	お仕事をされている方が多く、また他事業所で行われる保護者会などに参加されているため、募集してもあつまらなかった。	簡単なペアレントトレーニングなどと合わせて保護者会を、児発の保護者と合同で開催していきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」掛川校

公表日 2026 年 2 月 15 日

利用児童数 31

回収数 23

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	3	0	2	・広いとは言えないけれど、空間を上手に使っている。	ありがとうございます。170m <sup>2</sup> 以上のフンフローアを、集団で利用したり、パーテーションで個別で利用したりしています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	23	0	0	0	・いつも職員の方がいてくださっています。	常勤、非常勤8名で対応しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	4	0	0	こどもはどこに何があるのか…気を付けるべきことがわかっていて。	事業所が2階にあり、利用者の皆様にはご不便をおかけし、申し訳ございません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	1	0	0	・いつもきれいです。	ありがとうございます。清潔を保てるよう、日々の清掃には力を入れています。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	0	0	1	・こどもの発達に合わせて支援してくれていると感じています。 ・こどもの成長過程を見極めてくださって支援してくださっている。	ありがとうございます。日々精進したいと思っています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	2	0	0	・個別ですがしっかりと取り組めています。	1対1のマンツーマンの療育の為、そのお子様の主訴にあったプログラムを提供しています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	1	0	0	・こどもの課題を見出してくださって、取り組めるよう計画作成がされている。	お子様のことを客観的に分析をするためにWPPSI 3 知能検査、新版K式発達検査などを取り入れています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1	0	2		以前より、5領域を意識した計画作成に努めています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23	0	0	0	・希望をする支援を取り入れて、行われています。	毎回、計画を確認しながら、お一人お一人の支援プログラムを作成しています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	1	0	1	・いろいろな工夫されています。固定化しないようにする部分と継続していく部分とを考えてプログラムを立ててくださっている。	ありがとうございます。日々、教材研究などを行い、固定されないよう努めています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	5	8	4	・個別支援であるから地域の子どもたちとの交流はなしてアリだと思う。	当事業所は個別療育としているため、また、学校等で他のお子様と触れ合う機会があるため、そのような機会を設けていません。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	0	0	0	・していただきました。	契約時に、説明しています。また、支援プログラムについては、契約前にお子様には支援を体験してもらい、面談をしています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23	0	0	0	・していただきました。	専門支援計画と合わせて説明しています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	4	1	2	家族が参加するものが無かったように思います。	今年度は児発のお子さんには行いましたが、放デイでは行えませんでした。放デイでも研修会の準備を行ってまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	22	1	0	0	・その日にやったことや遊びなど丁寧に教えてくださるので、こどもがどんな感じだったかわかり助かります。 ・毎回終わった後で活動内容と様子を報告していただきます。	ありがとうございます。支援後に行うフィードバックの時間を充実できるよう工夫していきます。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1	0	1		定期的ではありませんが、支援終了後にフィードバックを行い、助言等を行っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	0	0	1	・学校での先生からの指摘などを相談すると支援の内容に取り入れてくれるので支援してもらっているなど感じます。	お子様や保護者様に対し、共感的に受け止めるよう努めています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	5	6	7	・兄弟への支援を希望します。 ・保護者同士の交流の場がないです。	企画してまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	2	0	2	・相談したいと思ったときには、すぐに対応してくれています。	「お悩み相談室」のお便り等の配布を行い、保護者様に周知したいと思います。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	0	0	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	13	2	0	8	・ホームページやSNSを見たことがないので。	入り口などのQRコードを掲示させていただいています。インスタやブログでの活動の掲載を活発にし、周知するよう努めたいと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	1	0	0	・配慮してくださっています。	ありがとうございます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	1	0	2		契約時に説明しています。また、様々な災害などを設定した訓練を行い、様子を校舎内に掲示しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	2	0	4	・定期的に訓練していただいているのか？	窓から出て、隣の釣り具店から避難できるように、ご協力をお願いしています。毎月、様々な災害を想定し訓練をしています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1	0	2		契約時に説明させていただいていますが、安全計画等が閲覧できるよう工夫をしています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	0	0	3		事故等が起こらないよう努めていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23	0	0	0	・安心できる場であるので、表情がよいです。	ありがとうございます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	23	0	0	0	・学校でどんなに疲れていてもきりは休まず楽しんで行っています。 ・とても楽しみにしています。	ありがとうございます。お子様の笑顔に元気をもらっています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	0	0	0	・先生たちの温かい言葉かけ、対応のおかげで嫌がることなく通わせていただいています。それが何よりありがたいです。「楽しく通い、学びがある」それが一番です。いつもありがとうございます。 ・満足しています。	みなさんにご満足いただけるよう日々精進していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」掛川校				公表日	2026 年 2 月 15 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		小さな部屋、大きな部屋、和室などと、お子さんに合わせて部屋の環境を整えて行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		1 人の生徒に対して 1 人の指導員が担当している。	児発管が公休などで電話対応ができないときがあるが、支援には支障がない。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		支援室には極力物を置かず、視覚刺激を減らしたり、音や温度などを調整できる個室を使用したりして、お子さんの特性などに配慮した環境を用意している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		午前中にイベントや支援がない限り、毎朝の清掃を欠かさず行い、定期的に事務所内の整理整頓を行っている。クリップ、輪ゴム類の支援室への持ち込みには注意している。	空調清掃を依頼した方が良いと思う。匂いが気になる時期がある。カビ対策を講じたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		特性に応じて、小部屋や和室（個室）などを使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			事業所評価のアンケートのご意見等は真摯に受け止め、改善に努めたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		申し送りや、その時その時で感じたことを話し合ったり、悩みなどを相談したりする場面がある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	法人内で内部監査を行い、できていなかった部分を職員に共有して改善している。	第三者による外部評価については、法人内で検討中。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の研修が年間で計画され、受講する機会は確保されており、参加するように心がけている。個人的に自己負担で有料研修を受け、自己研鑽を図っている。かけがわ乳幼児教育未来学会や聖隷クリストファー大学が行う研修に参加し、その資料等は回覧している。	外部の有料研修を受ける予算が確保されておらず機会が不足している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		個別支援計画、専門的支援実施計画や支援記録を見て、お子さんに合ったプログラムの作成を心掛けている。 一人一人毎回オーダーメイドのプログラムを作成し、支援終了後には保護者に課題のねらいや目的等を説明している。 HPIに公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者へのモニタリングの際、保護者のお話を聞き、その後、職員からお子さんの様子を聞き、客観的に分析した上で作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリングや支援での様子を職員間で共有し、日々検討を行っている。そのような会話が常に飛び交っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援プログラムを作成時など、いつでも支援計画が見られるように、支援記録用の個人ファイルにも入れている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		WISC知能検査結果やNCプログラムや筑波大学付属大塚特別支援学校の安部博志先生が作成した、『およその発達段階』を見ながらアセスメントを行っている。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援は5領域を踏まえた集団では取り入れにくい個別ならではの内容を設定するように心がけている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		WISC等の知能検査の結果や個別支援計画・専門的支援実施計画、職員間の話し合いなどを通して、立案を心掛けている。 様々な資格や経験を積んだ職員が関わり、様々な視点からそのお子さんにあった活動を取り入れたプログラムを提案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日々、指導員同士で教材研究を行っている。 様子を見ながら指導員を変えたり、お子さんに希望を聞いたりしながらプログラムを作成している。	特性上、固定化してしまうお子さんもあるが、そのようなお子さんにも、お子さんの様子をしっかりと観察し、少しずつステップアップした課題を提供できるように心がけている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			個別療育の特色を打ち出しているため、集団療育の提供は少ないが、人との関わりの必要なお子さんに関しては同時刻利用のお子さんとの関わりが持てるよう引き続き工夫していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		同じ時間帯のメンバーの相性などを配慮して部屋割りや支援内容を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		気づいたことや子どものお様子などその日のうちに職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善を心掛けている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一回モニタリングを行い、それに伴って支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		2つの課題を用意するなどして、選択をする経験を積めるよう工夫している。アナログゲームや同時間帯利用の他児との遊びでのやり取りの中でも、自己決定する時間を設けている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		セルフプランが多い為、担当と児発管が直接学校を訪問し、情報共有をして互いの役割分担と協力関係について話し合っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		サービス担当者会議や学校訪問を行った際に、情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		児発の多機能型事業所であるため、児発のお子さんの園訪問をおこなった際に情報が得られることがある。	必要なお子さんに関しては、今後保護者の同意を得て、行っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		東遼地区生活支援センター、自立支援協議会放デイ連絡会が主催する研修等に参加している。また、静岡県特別支援コーディネーターが来所され、研修の情報をいただいたり、支援の助言をいただいたりしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○	総会や放デイ連絡会に参加している。昨年度は放デイ連絡会の座長を務め、掛川市の相談支援事業所増を図った相談支援事業所向けの研修会にて講師をした。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	希望者される方にはいつでも支援見学を受け入れている。支援後に保護者へのフィードバックを欠かさず行い、今できていることや課題を共通理解を計っている。また、家庭や学校での様子、支援中の様子について情報交換を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		児発管がペアレントトレーニングの研修に行き、トレーニングできるように準備をしている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	児発管が行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	児発管が行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者の話を傾聴・共感し、指導員だけで相談に乗り切れないときはすぐに、児発管に伝え、迅速に対応できるように心がけている。相談があると、すぐに対応できるよう調整を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者だけの保護者会の開催は行っていないので、今後は行っていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	LINEでイベントの予定などの案内などを発信し、Instagramで、イベントの様子や季節の掲示物を発信している。	ブログでの発信を積極的に行ってきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報があるものは、鍵付きの書庫に保管している。	支援記録の書庫の扉が開いているときがあるため、きちんと扉を閉めるように徹底させたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		個別療育という特色上、保護者のニーズはない。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアル作成後は指導員内で共有し、それに伴って訓練を行っている。訓練の様子を事業所内入口の見やすいところに掲示している。	マニュアルの周知はファイルを受け付けカウンターに置くように改善した。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	毎月、訓練を行っており、また、定期定期に防災リュックの中身の確認、避難経路の確認等を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	契約時や年度替わりに、基本情報シートを記入していただき、確認をしている。服薬等に変更があればその都度報告するよう保護者様に呼びかけている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	基本的には食物を提供していないが、アレルギーの有無は、契約時や年度替わりに確認を行っている。お菓子などを提供したり、小麦粉粘土を行った際は、その都度保護者に確認を取っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	年度初めに安全計画を作成し、それに基づいて研修や訓練を行っている。	保護者様が安全計画を見ることができるよう掲示する。

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難場所や毎月の防災訓練の様子を掲示している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起きたときはすぐに職員間で共有し、再発防止に向け話し合っている。また、記録をファイルに保管し、新入職員は初日に記録を確認している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人で年間の研修計画や委員会の実施計画を策定し、行っている。毎月チェックリスト確認している。静岡県西部地域でも虐待防止委員会を置き、事例の検討や情報の共有などを行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		支援計画に記載をしている。また、切迫性、非代替性、一時性の3要件を満たした時、行う可能性があることを、契約時に児発管が説明し、了承を得ている。	